

エジソン記念碑

トーマス・アルバ・エジソン（1847～1931）は、米国の多作な発明家、革新者、実業家でした。彼は、蓄音機、初期の映写機、白熱電球など、現代の生活に大きな影響を与えた多くの発明品を開発および改良しました。エジソンの白熱電球に関する研究は八幡と結びつきがあるとされており、1934 年にエジソンとその業績を記念して、男山の石清水八幡宮境内に記念碑が建てられました。この記念碑は 1958 年に現在の場所に移設され、1984 年にデザインを一新し再建されました。

エジソンが 1878 年に電灯システムの開発に重点的に取り組んでいたとき、長持ちする信頼性の高い電球を作る必要がありました。重要なポイントは、フィラメントに適した材料を見つけることでした。彼は、金属から綿糸、さらにはあごひげまで、何千もの素材を試し、竹が最も成功の見込みがあることを発見しました。そしてエジソンの助手たちが京都を含め世界中で竹のサンプルを集めるために派遣されました。彼らの旅で集められた高品質の竹の標本から、1000 時間以上燃焼する耐久性に優れたフィラメントが生まれ、そしてその結果、この発見は白熱電球の普及に大きく貢献しました。エジソンがフィラメントとして使用していたのは、質が高いことで全国的に有名だった石清水八幡宮の近くの林の竹だったと言われています。

エジソンの誕生と没後を記念して、石清水八幡宮は毎年 2 月 11 日と、10 月 18 日前後に 2 つの祭りを開催しています。またこの神社には、エジソンの八幡における重要性和知名度を反映した、エジソンを記念した絵馬もあります。